

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2019年2月26日まで（2014年9月2日設定）
運用方針	米ドル建てのハイイールド債券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざします。 主として信託期間内に償還を迎える銘柄に投資を行います。ただし、償還が信託期間を超える銘柄にも一部投資を行うことがあります。組入債券の格付けは、原則として取得時においてBB+格相当以下B-格相当以上の銘柄とします。ただし、信託期間内に組入債券が償還した場合等には、投資適格社債および米国債に再投資することがあります。そのため、米ドル建てのハイイールド債券の組入比率が低下することがあります。 債券等の運用にあたっては、プリンシパル・グローバル・インベスターズ・エルエルシーに運用指図に関する権限を委託します。 組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。
主要運用対象	米ドル建てのハイイールド債券等を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

償還報告書（全体版）

[満期償還]

三菱UFJ 米国ハイイールド 債券ファンド2014-09 (為替ヘッジあり) (限定追加型)

信託終了日：2019年2月26日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「三菱UFJ 米国ハイイールド債券ファンド2014-09（為替ヘッジあり）（限定追加型）」は、この度、信託期間を満了し、償還の運びとなりました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
(受付時間：営業日の9:00~17:00、
土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基 (分配落)	準 価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金			
	円 銭		円		%	%	百万円
(設定日) 2014年9月2日	10,000		—		—	—	2,050
1期(2016年2月26日)	8,692		0	△13.1	88.6	—	1,533
2期(2017年2月27日)	9,825		0	13.0	89.3	—	1,459
3期(2018年2月26日)	9,841		0	0.2	94.2	—	1,174
(償還時)	(償還価額)						
4期(2019年2月26日)	9,606.41		—	△2.4	—	—	889

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは、米ドル建てのハイイールド債券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	日	基 準	価 額		債 組	入 比	券 率	債 先	物 比	券 率
				騰 落	率						
	(期 首)		円 銭		%			%			%
	2018年	2月	26日	9,841	—			94.2			—
		2月	末	9,857	0.2			94.4			—
		3月	末	9,833	△0.1			95.9			—
		4月	末	9,826	△0.2			96.4			—
		5月	末	9,828	△0.1			94.8			—
		6月	末	9,818	△0.2			96.3			—
		7月	末	9,819	△0.2			96.1			—
		8月	末	9,825	△0.2			93.4			—
		9月	末	9,822	△0.2			90.5			—
		10月	末	9,756	△0.9			95.6			—
		11月	末	9,733	△1.1			90.7			—
		12月	末	9,622	△2.2			82.9			—
	2019年	1月	末	9,618	△2.3			4.7			—
	(償還時)		(償還価額)								
	2019年	2月	26日	9,606.41	△2.4			—			—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

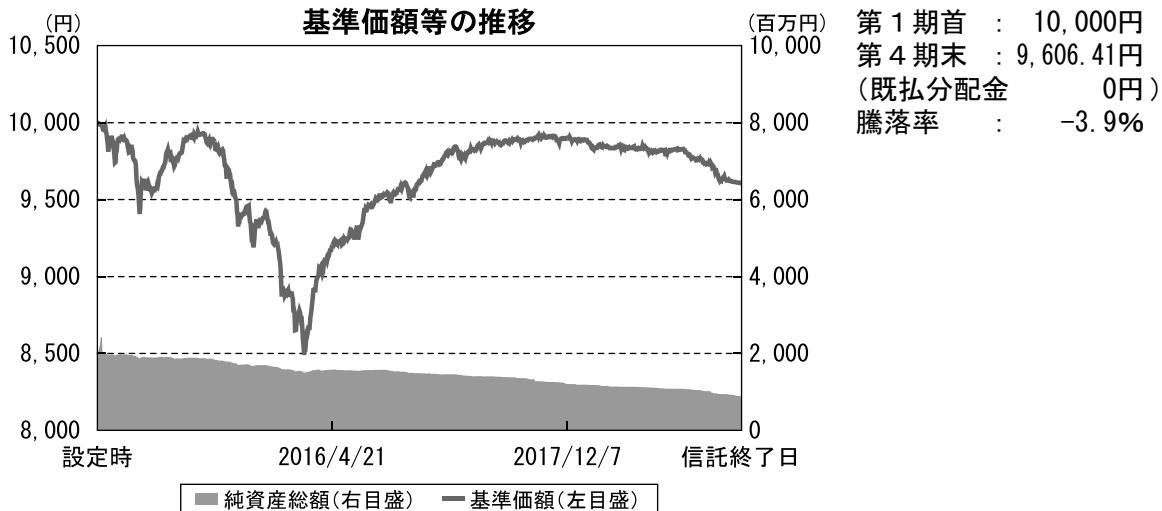
運用経過

設定来の基準価額等の推移について

（第1期～第4期：2014/9/2～2019/2/26）

基準価額の動き

償還価額は設定時に比べ3.9%の下落となりました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

上昇要因	債券利子収入を享受したこと等が基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	デフォルトや債券価格の下落への懸念が高まったと判断した銘柄について、他の銘柄への入れ替えを実施した結果、一部の保有銘柄について100を下回る価格で売却し、損失を確定したこと等が基準価額の下落要因となりました。また、ヘッジコストの上昇や信託報酬等についてもマイナス要因となりました。

投資環境について

（第1期～第4期：2014/9/2～2019/2/26）

◎債券市況

- ・設定来の米国ハイイールド債券市況は上昇しました。
- ・米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げ等を受けて米国長期金利が上昇したことや、原油価格が下落する中でスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したこと等はマイナスとなったものの、債券利子収入を享受したこと等がプラスとなり、米国ハイイールド債券市況は上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

- ・米ドル建てのハイイールド債券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざすと共に、為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。為替ヘッジを行ったため、円・米ドル為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。
- ・銘柄選定にあたっては、信用リスクに配慮しつつ発行体のファンダメンタルズに照らして相対的にクレジット・スプレッドが厚く、投資妙味があると見られる債券を中心に投資しました。
- ・バイ・アンド・ホールド戦略を基本とし、個別銘柄については原則継続保有としましたが、市場環境の変化等により、発行体の経営・財務状況等を考慮した結果、組入債券のデフォルトや債券価格の下落への懸念が高まったと判断した銘柄について、他の銘柄への入れ替えを実施しました。
- ・信託期間を通じてみると、債券利子収入を享受したこと等がプラスとなったものの、一部の保有銘柄について100を下回る価格で売却し損失が確定されたことや、ヘッジコストが上昇したこと等がマイナスとなり、償還価額は設定時に比べ3.9%の下落となりました。

<第1期：設定時～2016年2月26日>

基準価額は設定時に比べ13.1%の下落となりました。

- ・当期は、原油価格が下落する中、投資家のリスク回避姿勢が高まったこと等を背景にスプレッドが拡大したこと等から、米国ハイイールド債券市況が下落したこと等がマイナスとなり、基準価額は設定時に比べ下落しました。

<第2期：2016年2月27日～2017年2月27日>

基準価額は期首に比べ13.0%の上昇となりました。

- ・当期は、原油価格が反発したこと等を背景に投資家心理が改善したこと等を受けて、米国ハイイールド債券市況が上昇したこと等がプラスとなり、基準価額は期首に比べ上昇しました。

＜第3期：2017年2月28日～2018年2月26日＞

基準価額は期首に比べ0.2%の上昇となりました。

- ・当期は、堅調な米国経済を背景とした米企業の業績拡大や財務改善見通し等を受けて、スプレッドが縮小したこと等から、米国ハイイールド債券市況が堅調に推移したこと等がプラスとなり、基準価額は期首に比べ上昇しました。

＜第4期：2018年2月27日～信託終了日＞

償還価額は期首に比べ2.4%の下落となりました。

- ・債券利子収入を享受したこと等がプラスとなった一方、原油価格が下落する中で米国株式市況が軟調に推移した局面で、投資家心理が悪化しスプレッドが拡大したこと等がマイナスとなり、償還価額は期首に比べ下落しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは、米ドル建てのハイイールド債券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

信託期間中の収益の分配はありません。

償還価額

償還価額は9,606円41銭となりました。

信託期間中はご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2018年2月27日～2019年2月26日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 155	% 1.586	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× （期中の日数÷年間日数）
（ 投 信 会 社 ）	（ 88 ）	（ 0.896 ）	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 63 ）	（ 0.647 ）	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 4 ）	（ 0.043 ）	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.029	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	（ 2 ）	（ 0.024 ）	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（ 監 査 費 用 ）	（ 0 ）	（ 0.004 ）	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（ そ の 他 ）	（ 0 ）	（ 0.001 ）	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	158	1.615	
期中の平均基準価額は、9,777円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売 買 及 び 取 引 の 状 況

（2018年2月27日～2019年2月26日）

公 社 債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	社債券	千アメリカドル 2,348	千アメリカドル 7,636 (4,720)

(注) 金額は受渡代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注) 社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2018年2月27日～2019年2月26日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
為替先物取引	12,688	2,297	18.1	11,501	2,143	18.6
為替直物取引	—	—	—	1,189	131	11.0

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年2月27日～2019年2月26日)

期首残高(元本)	当期設定元本	当期解約元本	償還時残高(元本)	取引の理由
百万円 75	百万円 —	百万円 —	百万円 75	当初設定時における取得

○組入資産の明細

(2019年2月26日現在)

信託終了日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2019年2月26日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 902,292	% 100.0
投資信託財産総額	902,292	100.0

○資産、負債、元本及び償還価額の状況（2019年2月26日現在）

項 目	償 還 時
	円
(A) 資産	902,292,714
コール・ローン等	902,292,714
(B) 負債	12,727,515
未払解約金	4,677,215
未払信託報酬	8,029,285
未払利息	1,410
その他未払費用	19,605
(C) 純資産総額(A-B)	889,565,199
元本	926,012,305
償還差損金	△ 36,447,106
(D) 受益権総口数	926,012,305口
1万口当たり償還価額(C/D)	9,606円41銭

<注記事項>

- ①期首元本額 1,192,998,381円
 期中追加設定元本額 0円
 期中一部解約元本額 266,986,076円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.960641円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は36,447,106円です。

③信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託財産の純資産総額に対し年10,000分の37以内の率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しております。

○損益の状況（2018年2月27日～2019年2月26日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	48,375,120
受取利息	47,985,359
その他収益金	444,413
支払利息	△ 54,652
(B) 有価証券売買損益	△ 52,930,191
売買益	110,416,123
売買損	△163,346,314
(C) 信託報酬等	△ 17,212,143
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 21,767,214
(E) 前期繰越損益金	△ 14,559,060
(F) 追加信託差損益金	△ 120,832
(売買損益相当額)	(△ 120,832)
償還差損金(D+E+F)	△ 36,447,106

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年9月2日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年2月26日			資産総額	902,292,714円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	12,727,515円	
				純資産総額	889,565,199円	
受益権口数	2,050,072,024口	926,012,305口	△1,124,059,719口	受益権口数	926,012,305口	
元本額	2,050,072,024円	926,012,305円	△1,124,059,719円	1万円当たり償還金	9,606円41銭	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万円当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	1,764,197,580円	1,533,401,264円	8,692円	0円	0%	
第2期	1,485,573,505	1,459,638,098	9,825	0	0	
第3期	1,192,998,381	1,174,086,035	9,841	0	0	

○償還金のお知らせ

1万円当たり償還金（税込み）	9,606円41銭
----------------	-----------

◆償還金は償還日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆課税上の取り扱い

- ・個人受益者の場合、償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得等として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。
- ・特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。